

日時	場所	天候、状況、判断
5日 12:25	広河原バス停	曇り。前回の山行から1か月開いてしまったが、体力的に問題はなさそう。前日よく寝れなかった人もいて、移動中寝ていた。すでに予報9日には大雨の予報で、1日停滞を前提にする。バスに乗り合わせたのは20人強、道中もすれ違いは何度もあったが、混雑はしていなかった。
15:00	白根御池小屋	1時間ごと休憩して小屋に着く。途中オコジョがチラチラ現れ、撮影会に。そこそこの登りだったが、疲れた様子は見られない。コメを水に浸して、テントを張る。テントは大と中の2張り。トイレが水洗式、テント場もそれなりに500円。過ごしやすい。
17:00	〃	夕食。みなレトルト。一人、夕食は毎日具無し銀座カレーにするようで、飽きないのか、調理が必要じゃないかと話題に。米の炊き具合は今年度まれに見る成功で、幸先良い。
18:30	〃	「篠笛奏者で作曲家でもある山崎泰之さん」のミニコンサートがちょうど当日行われた。はじめは聞いていたが、各自早々にテントに籠る。



6日 04:30	白根御池小屋	起床、6時に出発。 出ですぐ、植物が茂る急坂の草スベリを登る。道じたいは何ともないが、30名前後の団体と被り、様子を伺いながら登る。
08:30	小太郎 尾根分岐	多くの登山客とすれ違う。隊員に合わせてゆっくり登ったが、予定より約1時間巻いている。このころガスが晴れて、北西に仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳が、南に富士山が見えた。
09:00	北岳山荘	1時間ごと休憩を取りつつ、北岳山荘に着く。Tはサイダーを購入、はやい。雲行きが怪しくなり、30分後には雹が降る。雨具とザックカバーをつける。
10:30	北岳	最初の目的でもある北岳に登頂。標高第2位ではあるが、独立峰の富士山と比べると何か登った感じが足りないとの声も。運よくガスは晴れ、雲がうねる山々を眺める。気温10度前後、休憩すると寒い。
11:40	北岳山荘	八本歯コル方面のまわり道を使ってガレ場を回避。崖沿いに木の橋やはしごを渡り、すこしすくむ思い。下りなのでペースも早い。到着と同時に雨が降る。急いで幕営し、4時まで自由行動。各自寝たり話したり、音楽聴いたりしていたもよう。バイオトイレは清潔、水道もあり800円。カップ麺やバンダナなどは在庫少だった。カップ麺やココアなどを購入。
16:00	〃	雨は強くなり、テント内で米を炊く。芯が残ったがお湯で追い炊きして何とかなったもよう。5時には食べはじめ。Tは持参のビビンバが不評らしく、ダラダラと食べていた。 天気予報によると明後日まで曇りと雨だが、9日までは動けそう。
19:00	〃	遅くならない程度い就寝。しかし稜線沿いのため風が強く、テントがひしゃげるほどの風が吹き付ける。何人かは心配を通り越して楽しそうにしていた。幸い、全員なんとか寝れたようです。



7日 04:30	北岳山荘	雨風が止むがガスがかかる。少し遅れて6時半に出発。 視界が2,30m程で、道は見えるが次のピークがわからない状況。 岩は濡れているが、稜線なのでスムーズに進む。Cが初めてテントを背負う。途中つまづきつつも、おおよそ安定して歩く。
08:10	間ノ岳	どこを向いても岩と霧のなか、間ノ岳登頂。汗をかくほどでもなく、そこそこ快適。しかし立ち止まると寒い。30分ごと5分程度休んで歩く。下りや稜線はKがはやく、のぼりはCが得意なまよう。結果的にコースタイム通りのペースになる。
08:50	三峰岳	ガスが晴れて、まわりの山々が姿をあらわす。三峰岳山頂には荷物を降ろしてのぼる。意外と眺望よく、10分ほど休憩。
11:20	野呂川越	三峰岳を過ぎると灌木帯、そして次第に樹林帯へ。また雨が降り始め、土が滑り、両俣小屋に着くまで何人か転ぶ。幸い無傷または切り傷程度。
12:10	両俣小屋	急坂を下る。雨があがり日が差すことも。服や靴、テントを乾かし、川で頭や足を洗う。 3時頃また雨が降り始め、急いでテントを張る。このとき昨日の強風のせいか大テントのフライのチャックが壊れ、前室が作れないことがわかる。ツェルトと細引きで前掛けのように屋根を作り、テントが濡れないようにする。 小屋の人に天気を聞いたところ、翌日はずっと雨の予想。仙丈ヶ岳までは行きたいこともあり、朝の様子を見て考える。
16:30	〃	夕食。米は少し固く少し焦げたが芯は無し。水加減が未だ定まらない。その後就寝。TとCがテント内で歌う。



8日 03:30	両俣小屋	起床。5時発予定だが雨が降っていることもあり遅れる。小屋の方いわく、台風18号が予想より早く静岡に接近、前線がこの地域にかかっているので仙丈や北沢峠へは危険とのこと。時間がかかる行程であり、もし北沢峠まで行けてもバスが止まる可能性もあるため、無理はできないとなり、下山を決める。
09:20	広河原バス停	出発は6時半、治山運搬路を歩いて広河原までひたすら歩く。カエルやサルを見かけて盛り上がることもあったが、終始無言で歩く。数年前の台風の影響か崖崩れや木が流されているところも多く見かけたが、道自体は何ともない。その日1本目のバスに乗る。15人ほどが乗り合わせる。
	その後	バスで甲府駅へ。喜久の湯温泉で2時間ほど疲労を抜き、遅めの昼食を済ませて解散。



総評

計画半ば、雨を降らす台風が急速に接近し、撤退することに。登頂できたのは北岳、間ノ岳、三峰岳など。一方、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳という南アを代表する山に登る機会には恵まれず、達成感は満たされなかった。

一方で反省点も多い。特にテントの張る場所だ。2日目北岳山荘は稜線沿いがあり、植物はハイマツが這うのみで、風を遮るものがない。当日はテントが大きくひしゃげる程の風に煽られ、安心して眠れなかった。また雨でしみたテントの隅や屋根が揺さぶるので、室内が結構濡れる。ついにはフライシートが壊れてしまった。考えてみれば去年の北ア、大天井岳の大天荘でも一人用テントを飛ばされている。できるだけ物陰に設営し、飛ばされない工夫をするべきだった。

もちろん良い思い出も多い。雲が晴れまわりの山々があらわになったとき、自分が歩いてきた道の険しさを実感した。やっと小屋に着いて、窮屈な靴やザックを取り払った開放感。雨に濡れて下山したあと、温泉で温まる瞬間。何より、今夏から入部した千葉さんが加わり、さらに賑やかになったことがうれしい。

来年就活が始まる私は、これから大人数で登山できるかわからない。やっぱり一人より大勢が楽しい。またこんな登山がしたいと思う。

(土居)